



リスクフラッシュ 試験発行号

Risk Flash 試験発行号

発行：滋賀大学経済学部附属リスク研究センター

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1

TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189

e-mail: risk@biwako.shiga-u.ac.jp

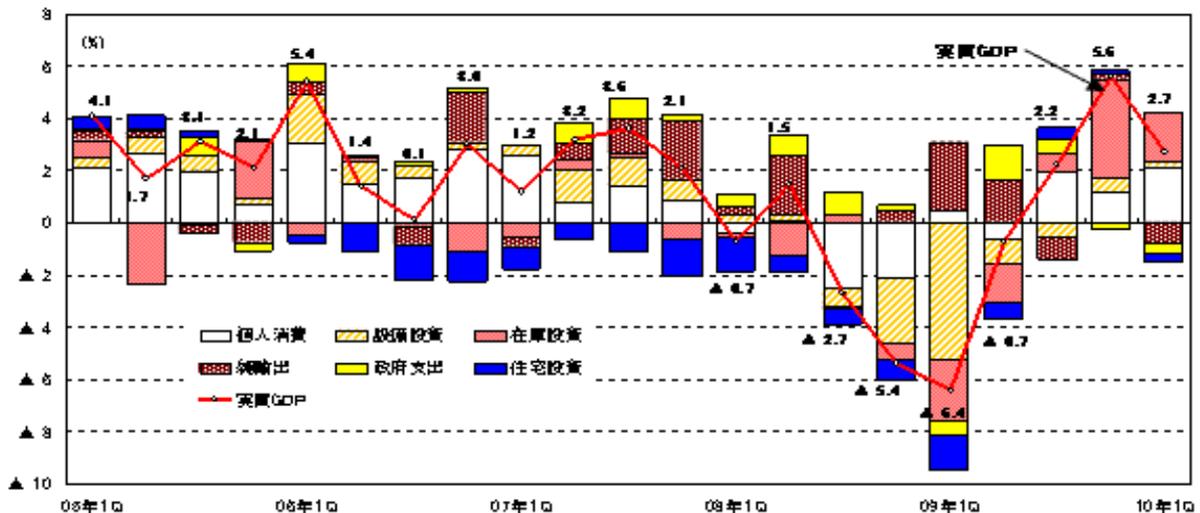
Web page : http://www.econ.shiga-u.ac.jp/main.cgi?c=10/2

●景気の断面	Page 1
●今週の著書・論文紹介	Page 2
●研究紹介・センター通信	Page 3

景気の断面

欧州の財政赤字、欧米商業銀行の信用リスク懸念から世界の金融市場は調整を続けている。年初、堅調を伝えられたアメリカ経済にも調整の兆候がみられる。図は、ニッセイ基礎研究所が作成したアメリカの実質GDPの成長を需要項目別に分解したものである。2010年1-3月期の成長は前期比年率で2.7%とピークアウトの状況を示している。また、この2四半期連続して大きく在庫が積みあがっている。5~6月の小売売上高の減少も見られ、今後景気のスローダウンが見込まれる。ただ、これは通常の景気循環であり、金融危機に伴う景気の腰折れとは異なるために、景気の二番底には至る可能性は低い。（久保 英也）

米1-3月期実質GDPは+2.7%に下方修正



（四半期別、前期比年率、棒グラフは寄与度内訳）

出所：ニッセイ基礎研究所エコノミストレーター（2010/5）、米国商務省

今週の著書・論文紹介

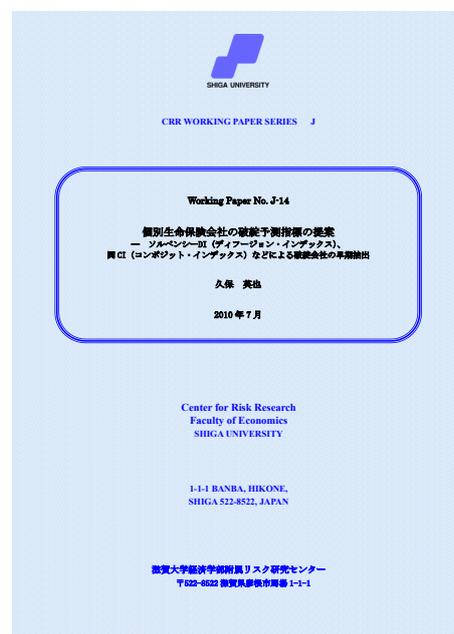
論文「個別生命保険会社の破綻予測指標の提案」
 — ソルベンシーDI (ディフージョン・インデックス)、
 同CI (コンポジット・インデックス) などによる破綻会社の早期抽出

著者：滋賀大学 経済学部教授 久保英也著
 収録：リスク研究センターワーキングペーパーシリーズ J-14 (全21ページ)

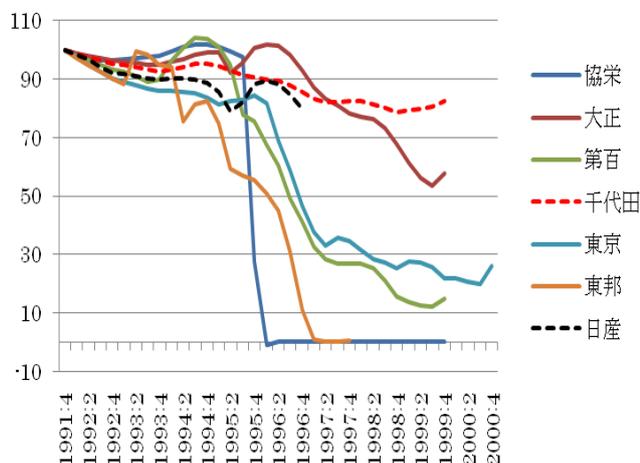
KEY WORDS: 長期平均利益乖離仮説、基礎利益、ソルベンシーDI、ソルベンシーCI

概要： この論文では、ソルベンシー・マージン基準などリスクベースドキャピタル方式（以下、RBC と略す）の健全性基準では、保険会社の経営破綻を事前に把握することは難しいと考え、個別保険会社の経営破綻を事前に察知する新しい手法を提案する。同基準はたびたびリスク係数などが改善されてきたものの、2008年10月の大和生命の破綻も予測できず、現在、再度の修正作業が進んでいる。契約者、消費者など契約当事者や株主などの市場参加者の常時チェックに加え、監督当局による常時モニターが可能な指標が求められている。

開発した健全性指標は、①破綻の予測精度が高いこと、②簡便でわかりやすいこと、③明確な先行性・速報性を有すること、を目指した。バランスシートとリスク係数に立脚するRBCに対し、保険会社の本来利益、すなわち損益計算書の動きに着目した健全性指標である。新健全性指標は、①基礎利益からの乖離幅、②ソルベンシーDI、③ソルベンシーCI、の3つからなる。



破綻生命保険会社を見分ける「ソルベンシーCI」の動き



資料は筆者作成

著者のつぶやき

保険会社の選択は自己責任だと言われても、破綻しそうな保険会社を選ぶのは専門家でも、監督当局でも難しいとされています。「できるだけわかりやすく」、「できるだけ早期に」、生命保険会社の経営破綻を見抜く指標を開発しました。その指標は3つあるのですが、右の図はそのうち「ソルベンシーCI (コンポジットインデックス)」と名づけた、10の破綻に関する統計を組み合わせ、ひとつの指標にしたものです。グラフの最終点が破綻時点を意味しますが、かなり前の段階から折れ線グラフが低下しているのがわかります。80の水準を割り込むとかなりの確率で破綻します。これなら、専門知識がなくても破綻を予測できると思います。

研究紹介＜金秉基先生＞

今回は、2008年9月より本学で教鞭をとっておられる金秉基（キム ビョンキ）先生を訪問しました。韓国ご出身の先生は、啓明大学校ご卒業後、韓国外務省を経て、神戸大学で博士号を取得されました。

★先生の現在の研究テーマは？

「開発途上国の持続可能な開発と国際協力」が研究テーマです。開発途上国にとって開発は必要なのか、必要であるならばどうすれば経済開発は軌道に乗るのか、また開発途上国の開発のために先進国や国際機関が行っている公的援助は必要なのかについて研究しています。

★開発プロジェクトに携わられたことがあればお聞かせ下さい。

「ラオス国立大学経済経営学部支援プロジェクト」の研究員としてラオスの教育開発に携わったことがあります。若手教員のフィールドワーク能力向上のために、縫製工場をまわりながらデータの収集や分析を行いました。平成19年度は、同学部の教員や学生とともにラオス農村部の所得・消費・貯蓄などの家計調査を行い、20年度にはラオス山間部の焼畑について調査を行いました。

★先生のご研究における今後の抱負をお聞かせ下さい。

地球上では貧困、紛争、テロ、環境汚染、感染症の蔓延、自然災害など様々な問題が発生していますが、これらの問題のほとんどは開発途上国で発生しています。開発途上国の貧困層は、十分な教育機会は与えられず、それが原因で貧困がさらに悪化するリスクに晒されています。貧困削減は開発途上国の発展のみならず、国際社会の平和と繁栄のためにも不可欠です。東南アジア諸国が抱えている複雑な問題を正確に調査・研究するために、先進国の開発経験や国際機関が行っている援助理論だけではなく、開発途上国の人々の目線で「開発と援助」を考えていきたいと思っています。

リスク研究センター通信

★6月8日・15日、本学の授業「信用リスクマネジメント」（原村健二担当）の一環として、滋賀銀行より講師をお招きし、特別講義を開催

滋賀銀行経営管理部より下辻篤氏・安井進の両氏を講師としてお招きし、経済学部講堂にて、「信用リスク管理」について、それぞれ「地方銀行の市場リスク管理」「自己資本比率規制とオペレーショナル・リスク管理」と題して、最新のリスク管理手法についてお話がありました。学生250名に一般の方の参加もあり、盛大なセミナーとなりました。

★6月25日 日本経済研究センター主任研究員の竹内淳一郎氏のセミナー「我が国の今後の景気展望と政策課題」を開催

日本経済研究センターの竹内淳一郎氏をお招きし、経済学部講堂にて、「我が国の今後の景気展望と政策課題」と題してご講演頂きました。日本経済の鋭い現在の構造分析と将来の展望を概括いただいたうえで、明るい将来に有効な政策提言を行っていただくなど、盛りだくさんの内容となりました。会場との質疑応答も白熱したものとなり、講堂という場所柄も手伝い、彦根高商時代の熱い授業が再現されたようでした。



滋賀大学経済学部附属リスク研究センター事務局

〒522-8522 滋賀県彦根市馬場1-1-1 TEL:0749-27-1404 FAX:0749-27-1189